

桜古木並木の通行注意<樹のお医者さまに診てもらいました>

去る8月、グラウンド入り口の桜の古木が、前触れなく折れてしまいました。長い年月を経て、樹幹内が空洞になっていたのです。



生徒・同窓生だけでなく、地域の方々にも愛され親しまれている本校のシンボルともいえる桜並木ですが、樹齢100年にもなろうとしていると伝えられており、このままでは心配な状態です。通行している人に危険が及んでは、せっかくの桜並木が台無しになってしまいます。実際、全国では昭和の校舎建設とともに植えられた樹木が昨今の厳しい天候で倒伏するなどの事故が起きた事例もあります。それを受けて、文部科学省からは、令和4年8月9日付「学校環境における樹木の安全確保について」において速やかな対策を行うよう通知されたところです。

そこで同窓会員の方々に相談したところ、樹木医さんに診てもらってはどうかと提案されたため、一般社団法人日本樹木医会 富山県支部から、三人の樹木医さんに来ていただき51本の桜を1本1本丁寧に診断していただきました。

結果は、やはり桜並木全体がかなり衰弱しているというものでした。

富山県教育委員会教育企画課に相談し、

 倒伏する危険のある3本の古木の伐採と、その他の桜の状態を良くするための剪定、肥料散布、薬剤散布を順次進めていくことになりました。

状態が良くなるまでは少し時間がかかるかもしれません。

みなさん通行には十分ご注意ください。

また春に、少しでも安全に美しい花がみられることを願いながら。



桜が元気になりますように!